病院広報誌　春号　No.３３
平成２６年５月１日より

外来担当医表

		月	火	水	木	金	土
午前 9：00～12：00	内科	青山(龍) 高見	市原 田邉	松本 山口	稲田 市原	松本 青山(龍)	市原 松本
	整形外科 外科	岡庭	岡庭	岡庭	岡庭	院長	第1.3院長 第2.4.5岡庭
	小児科	長江 木村	長江	長江 木村	木村	長江 木村	長江 木村
	検査	胃カメラ 腹部エコー 松本			胃カメラ 腹部エコー 松本 頸動脈エコー		
午後 14：00～16：00	内科	市原	青山(龍)	市原	松本	濱中	
	整形外科 外科						
	小児科	長江	長江	予防接種 乳児健診	木村	木村	
	検査	大腸ファイバー 山田・松本 頸動脈エコー	心エコー市原	胃ろう交換 工藤・松本 頸動脈エコー	心エコー市原 シャント PTA		
夕方 16：30～17：00	小児科	予防接種				予防接種	
夜間 17：30～19：30	内科	市原 第1.3.5松本(朋) 第2.4長尾		青山(龍) 小坂		松本 第1.3.5野原 第2.4天池	
	整形外科 外科	岡庭 院長		岡庭 （院長）		岡庭	
	小児科	木村		木村		長江	

周辺地図

＜職員募集＞　看護師･准看護師　担当　益田･菊池　／　薬剤師･臨床検査技師　担当　菊池

笑顔

病院広報誌　春号　No.３３
平成２６年５月発行
編集・発行/青山病院広報委員会

医療法人　青山病院
内科、胃腸科、循環器科、整形外科、外科、小児科、アレルギー科
リハビリテーション科、放射線科、血液透析センター
瀬戸市南山町1-53
TEL（0561）82−1118
http://www.seto-aoyama.jp
小児科予約　http://b.inet489.jp/aoym1118/
小児科予約用

基本理念

・思いやりと対話の医療を推進します。

・安全で納得できる医療を目指します。

・病める人々の権利とプライバシーを尊重します。

副院長・小児科部長　長江　秀利　～子どもの自尊感情について～

新年度を迎え、皆さま新たな気持ちを持って過ごされている時期だと思います。皆さまのお子さんが心身ともに元気に育ってくれるよう常日頃祈っています。そこで今回は、子どもたちが自信を持って生きていくために必要な自尊感情について述べさせていただきます。

自尊感情とは、自己の価値と能力に関する感覚および感情であり、自信、積極性、出来るという気持ち、幸せな気持ち、自分を大切に思う気持ちなどです。自尊感情が高くないと嫌な事や困難に直面した時に、すぐに立ち直れなく、しばしば自分はだめな人間だと思ってしまいやすいのです。

2007年のユニセフの幸福度調査によると日本は他の先進国の3倍にも当たる30%もの子どもたちが「孤独を感じる」といっています。原因の一つは親や社会が子どもたちに与えられる価値観が多様化していないからだと言われています。つまり子どもたちが自分たちの将来を自由に選択できる幅が狭いということです。子どもたちは親の過度な期待や学校での友達関係でストレスを多く感じています。家庭でも、学校でもあまり誉められず、いつも注意を受けている、叱られていると感じている子どもの自尊感情は低下してしまいます。

それではどうすれば自尊感情を高められるかということですが、自尊感情の形成には幼児期の両親、特に母親との関連が深いと言われていますので、子どもの話をよく聞いてあげる事や、大人の尺度で計ったり、他の子どもと比較しない事、誉める時には結果ではなく努力を評価してあげるという視点が大切です。その子の興味がある事、得意な事、好きな事、人よりも優れていると思えることを軸にして、自信を積み重ねさせることが大切だと言われています。そしてまた、周りの人たちから“ありがとう”としばしば言ってもらっている子どもたちは、周りの皆にも“ありがとう”という言葉をよく使えることが分かっています。是非親御さん方もお子さんに「“ありがとう”。お母さん（お父さん）もうれしいよ」と言ってみてあげて下さい。

免疫測定装置を導入しました

臨床検査科で新しく導入した「免疫測定装置」の紹介です。

検査には血液学的検査、生化学的検査などがあり、それぞれ、血液学的検査は赤血球や白血球の数などを、生化学的検査は血液に含まれる糖やコレステロールなどの化学物質の濃度などを測定します。これらは測定方法が違うため、それぞれの測定装置が必要です。

この装置は免疫学的に検査をするもので、免疫反応を使って測定します。免疫反応は測定したいモノと特異的に1対１の反応するため、小さくて数えられないモノなどを正確に測定することができます。たとえば、ある病気に対する抗体や、血液中に微量にしか存在しない蛋白質や、ホルモンなどが測定出来ます。

本装置を導入したのにあわせて、甲状腺ホルモンや、心臓の働きをみるホルモンなどの項目を増やし、迅速検査にも対応できるようになりました。少しでもこれらの検査項目で、患者様に貢献できればと思っています。

臨床検査科では常に新しい知識や、装置などを導入して患者様の役に立つ検査を目指して努力して行きます。

委員会紹介　「医薬品安全管理委員会」

薬品には効果とは別にアレルギーなどの副作用が見られる事があります。薬品を安全に使用して頂くために、医薬品安全管理委員会では院内で使用している全ての薬剤の管理をしています。

具体的になは、副作用等の情報収集をして、新しく副作用が出現した時や既存の副作用の変更、使用禁止薬の追加など、添付文書の変更があった場合に、速やかに院内に周知しています。また、新規に採用する医薬品についての検討も行っています。その他、注射器、注射針、被覆材などの医療材料の使いやすさ、コストなどを調べ、診療内容に適した材料の使用を勧めています。

これからも薬品や、医療材料について安全に医療が行えるよう努めてまいります。

診療放射線技師について

放射線科　加藤晋也

私が診療放射線技師と言う資格に興味を持ち始めたのは、医療系のテレビドラマや雑誌で、血管や肝臓などの臓器を３Ｄで表示してあり、それらの写真を元に治療が行われている事でした。そこに登場する写真や画像は、調べて行くうちに診療放射線技師が提供していることを知り、それに衝撃をうけ、医療分野の診療放射線技師の必要性や役割を私も担っていきたいという思いが湧いてきたからです。

現代の医療では、病気の診断や治療に放射線が欠かせません。身体を傷つけることなく体内を覗くことのできる数少ない方法の一つだからです。そのため、放射線医療は最新の科学技術が多く取り入れられる分野で、日々高度になる医療に対応して行く必要があります。

日々の検査では、医師の診断に役立つように工夫して撮影をする必要があります。患者さんと対話しながら症状、痛い場所・原因を聞きとりながらの撮影を心がけること、そして何より患者さんへの放射線の照射を必要最低限に抑える努力が大切だと思っています。医療現場で大切なのは病院スタッフと患者さんとの繋がり、信頼関係だと思いますので、レントゲンなどの写真を撮影する際も患者さんのためを考え、いろいろ工夫するよう努力しています。

一枚の写真に病気や怪我で苦しむ方への思いをこめて、高度な技術を備えた心優しいプロフェッショナルであり続けたいと思います。疑問や、世間話などなんでも気軽に声をかけて下さい。

青山病院の風景　陶壁画

鈴木　青々作

（すずき　せいせい）

大正３年～平成２年。愛知県赤津村生まれ。日展の常連で昭和29年特選受賞、昭和47年より日展評議員。中日文化賞、愛知文化功労賞などを受賞。伝統技法に囚われずに現代工芸の先頭を走り続けた人と言われています。